

あぐりめ〜る新川

第48号(平成22年9月発行)
富山県新川農林振興センター
〒938-0801 黒部市荻生3200
(TEL) 担い手支援課 (0765) 52-0268
(0765) 52-5192
農業普及課 (0765) 52-0094
(0765) 52-0945
(FAX) (0765) 52-3115

高品質な富山米の生産に向けて
〜土づくりの推進〜



マニユアスプレッダによる堆肥散布

新たな園芸産地づくり
〜チューリップの生産振興〜



病害株の抜き取り作業

地産地消・女性起業活動の推進
〜女性グループで加工品の開発〜



講師を招いてのカップケーキ作り

新規就農者の育成・確保
〜ブドウの経営規模を拡大〜



新規就農によるブドウ栽培

「気象変動に負けない」米づくりの秘訣は・・・

コツコツと地道に続ける土づくり

今年の夏は、近年にない非常に暑い夏でした。稲も暑い中よく頑張り、無事に黄金色の実りの秋を迎えました。しかし、葉が急激に枯れ上がったり、登熟の悪い田んぼが近年になく多くみられました。このような過酷な気象に遭遇すると地力の差が顕著に現れます。昔から「米は地力で作る」と言われております。

収穫のお礼と安全で高品質な米に仕上げる第1歩とするため、しっかりと土づくりをしましょう。

1. 土壌の養分は低下傾向

近年の定点土壌調査によると、①土壌 pH、②有効態ケイ酸含量、③腐植含量が低下しているほ場が多くなっています。このため、稲の茎葉が軟弱化して病気にかかりやすく、また、秋落ちするほ場が多く見られます。特に、腐植含量の低下は、気象変動により収量や品質が不安定になっている大きな原因です。

2. 有機物の施用により地力アップ

「気象変動に負けない米づくり」でもっとも重要なことは土壌中の腐植含量を増やして、地力を高めることです。

◎そのためには・・・

(1) 秋耕により有効土層を拡大するとともに、堆肥を積極的に施用し地力を高めましょう。

☆堆肥施用の効果

- ・透水性や保水性、通気性が良くなり、根張りが向上する。
- ・保肥力等が高くなり、早期の枯れ上がりを防止し、じっくり実らせることができる。

<堆肥施用量と基肥量減肥の目安>

堆肥	秋施用		春施用	
	施用量	基肥減肥量	施用量	基肥減肥量
牛ふん堆肥	1～2t/10a	なし	1～2t/10a	N : 1～2kg/10a
豚ふん堆肥	1～2t/10a		0.5～1t/10a	
発酵鶏糞	150kg/10a		100kg/10a	

(2) 水田輪作体系に地力増進作物を導入し、地力を高めましょう。

☆導入事例

- ・水稲－地力増進作物（ヘアリーベッチ、レンゲ）－大豆－水稲
- ・水稲－大麦－地力増進作物（クロタラリア、ソルゴー）－水稲 など

作目	地力増進作物	播種時期	播種量(kg/10a)	すき込み時期
大豆作付 予定ほ場	ヘアリーベッチ	9月下～10月上	4～6	4月～5月
	レンゲ	8月～9月	2～4	開花最盛期
大麦跡 ほ場	クロタラリア	6月～7月	6	開花始期
	ソルゴー	6月～7月	4	出穂期～穂揃期

秋の土づくり運動 9月15日～11月15日
美味しい・安全・安心な富山米は元気な土から

今こそ！ チューリップ球根栽培のすすめ

集落営農や農業法人組織の皆さんは、園芸を導入して経営の複合化を図ることを本気で考えておられますか？園芸は手間がかかるから・・・とか、販売価格が不安定だから・・・とか、二の足を踏んでおられる方に、今回、特にお勧めしたいのは、**チューリップ球根**です。

1 チューリップ球根の現状

富山県の特産であるチューリップ球根は、昭和10年代に導入され、積雪地帯である富山県では水田裏作として取り組み、地域に根差し発展してきた作物です。

そして、近年、低迷していた球根生産も、国産球の手堅い需要と、土壤伝染性病害の耕種的防除と耐病性品種の導入により品質・収量は向上し、単収は24,000球/10a、単価も安定しており、販売金額は約40万円/10aまで回復しています。小規模な個人経営の農家では十分な土地や施設、機械、労力等の確保が難しいのが現状ですが、集落営農や農業法人組織においては機械・施設、農地の高度利用と雇用の安定化を図る最適な作物です。

2 3つのメリットを活かしたチューリップ球根生産

- 1) 県花卉球根組合による一元集荷体制が確立しており、年次変動が少ない単価で収入が安定し、経営の見通しが立てやすい。
- 2) 土地利用型品目であり、機械化が確立されており、球根専用機械のリースが利用でき最小限の設備投資で栽培可能である。
- 3) 労働時間は200時間/10aが必要であるが、集落営農では出役者、農業法人組織では雇用者を農閑期に活用でき、労賃は集落営農では出役者に農業法人組織では雇用費に還元される。

留意点：連作が不可能で5年程度の輪作年限が必要である。

6月の球根掘り取りと10月の植え付けは、大豆の播種や収穫作業と競合することがある。

3 チューリップ球根の収支

《30a 当たり経営モデル》

単位：円

項 目		金額	10a 当たり換算	備 考
粗 収 入	売上高	1,386,000	462,000	球根販売額、産地確立交付金等
	計	1,386,000	462,000	
経 費	材料費	393,000	131,000	種球費注1、肥料代、農業代等
	経費	251,000	83,666	光熱水費、小農具費、リース代等
	雇用労働費	600,000	200,000	
	販売手数料等	110,160	36,720	売上げの8.5%
	計	1,354,160	451,386	
営業利益		31,840	10,614	

【前提条件】・県単事業と農業改良資金を利用 ・球根専用機械等は球根組合でリースとし、減価償却費は計上ナシ

・注1:種球費 110,000 円/10a は 1/2 補助と改良資金3年償還 ・時給は1000 円

4 球根生産の定着化に向けて

10a の栽培で**営業利益 10,614 円**と構成員に支払われる**雇用費 200,000 円**の**210,614 円**が経営体の収入となります。**種球根代金 110,000 円**も4年目以降は新規種球導入時のみ計上となります。栽培に当って活用できる事業や資金、どのような品種を選定するか等について、農林振興センターでは、積極的に支援することとしています。

がんばる女性起業の取り組みについて

近年、地産地消の意識の高まりの中で、農村女性が地場産農産物を活用した加工品製造に取り組む事例が増えてきました。新川地域においても、女性起業家や組織が、国や県の支援を受けて、農産加工施設を整備したり、様々な加工品開発に取り組んだりしています。

1 新川管内の事例紹介

(1) にゅうぜん味菜研究会

地産地消モデルタウン事業(国補)を活用し、加工施設を整備(事業主体はJAみな穂)しました。米粉パン・米粉ドーナツなどを開発しています。今後は、かぶら寿し・佃煮などの惣菜・干し芋などの開発や味噌の生産拡大を行っていきます。

主な販売先：

JAみな穂農産物直売所、にゅうぜんまちなか屋



(2) 農事組合法人 食彩あさひ

農村女性起業チャレンジ事業(県単)を活用し、加工機器をレンタルし、ポンせんべいを開発しました。現在は、米粉蒸しパンを改良中で、今後、様々な米粉製品を開発していく予定です。

主な販売先：

元気かあさんマーケット、ショッピングセンター「ライク」、なないろKAN



(3) ふれあい直売組合加工部

農村女性起業拡大支援事業(県単)を活用し、加工施設を整備しました。ジャムの開発と漬けものの生産拡大に取り組んでいます。ジャムの種類は、梅・りんご・にんじんがあり、今後は種類を増やしていく予定です。また果物のコンポートの開発も行っています。

主な販売先：

農産物直売所「よらーれ」、ショッピングセンター「メルシー」(以上はジャム)、漬物は飲食店に卸しています。



(4) 農事組合法人 うなづき食工房

農村女性先進モデル企業育成事業(県単)を活用し、加工機器を整備しました。いなきびクッキーの生産拡大とパンフレットを作成しました。現在は、いなきび・黒大豆を使ったカップケーキを開発中です。

主な販売先：

道の駅うなづき食菜館、ショッピングセンター「メルシー」



2 県の支援事業について

県では、商品開発や事業規模拡大を目指すがんばる農村女性を対象に、女性起業の発展段階や事業目的に応じた取り組みを支援しています。

○農村女性起業チャレンジ事業

農村女性起業活動を行う個人または組織を対象に、新たな商品開発やサービスの確立に対する取り組みを支援します。

○農村女性起業拡大支援事業

農村女性起業組織を対象に、起業組織が自主的に取り組む事業拡大に必要な調査等の活動経費や直売所の整備、加工機器の導入等を支援します。

○農村女性先進モデル企業育成事業

農村女性起業組織を対象に、起業から企業への発展をめざした商品構成の拡大、販売力の強化等の取り組みを総合的に支援します。

詳しくは、農林振興センター経営支援班までお問い合わせください。